

番号	13	
① プロジェクト名称	地域特産物を活用した機能性食品開発プロジェクト ～ヤーこんなに健康に～	
② プロジェクトメンバー(代表のみ)		
基礎教育部 基礎実技教育課程	坂本 宗明	代表
③ 参加学生数(報告時点)		
学部 1～3 年次生	研究室所属学生 (大学院生含む)	外部参加者数
182 名	2 名	70 名
④ 活動報告 (これまでの活動、年度末のまでの活動予定、活動における課題等について書いてください。フォントは 9～11pt以内。行間は適宜。写真や図も O.K)		

これまでの活動

現在までの活動成果を図1に示す。図中緑円は実施済み、灰円は今後の活動予定を示す。4月に前年度より活動を続けている学生がプロジェクト解説および新規参加者募集を行い、本年度は学生 15 名が活動することとなった。学生は週毎のミーティングによって商品開発や販売戦略について学習し、6 月には野々市ヤーコン倶楽部と連携し、野々市市提案型協働事業に対する計画作成および提案を行った。

8 月には学内において中間発表会を実施した。また、夏トミシェ(富奥防災コミュニティセンター, Toiro プロジェクトとの協働)を開催し、地域住民や翠星高校の生徒とともにヤーコンの葉の採集から料理までの体験教室を学生が主体となって行い、ヤーコンの機能性に関する理解促進を行った(図 2)。

9 月にはバイオ化学系において実施された研究の成果を学会で発表するとともに、地域住民を対象とした「ヤーコンまめ知識」の講演会を実施した。また、香林坊大和デパートのかがやき屋にてヤーコン商品の販売を通じ、実際の商活動を体験する機会を得た(図 3)。

10 月に翠星高校や野々市市食生活改善推進協議会メンバーと共に、「北国街道野々市の市」へ出店した(図4)。更に石川農林漁業まつりにおいて石川県立大学と共にポスター展示を行なった。以上に示したとおり、本プロジェクトは組織・世代・分野を超え、共創活動の幅を地域に広げている。

年度末までの活動予定

11 月から翌 1 月にヤーコン倶楽部との提案型協働事業であるヤーコン料理教室(野々市公民館, 4 回)を予定している。2 月には野々市ヤーコンサミットの開催を計画している。

活動における課題等

ヤーコンの収穫期となる 11 月以降、素材としてのヤーコン購入他の予算管理に十分な注意が必要である。

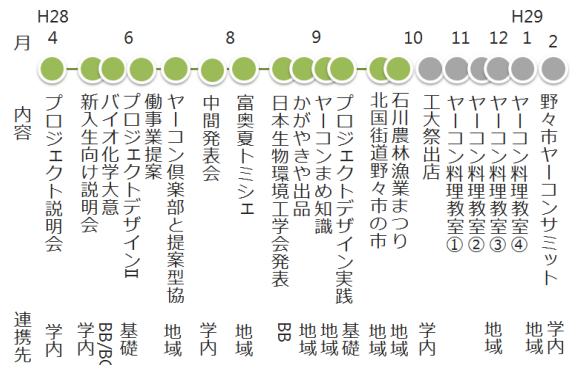


図 1 活動成果及び今後の計画



図 2 夏トミシェで地域住民に機能性を紹介



図 3 かがやき屋での販売体験



図 4 北国街道野々市の市に出店